冬の花

中津市長　奥塚　正典

冬に咲く花、寒椿。もっとしのぎやすく人が戸外で楽しむ時季に咲けば愛でられるのにと思うのですが、寒くて厳しい時を好むのでしょうか。でも花が咲くのは自然の摂理の中でしょうし、それだからこそ、哲学すると言うと大げさですが、冬の花は人に考える機会を与えるのかもしれません。

私がこの花に出会ったのは、先達二人による人生対話でした。引退直前の長老が、『年年歳歳花相似たり　歳歳年年人同じからず』と唐の詩人・劉希夷の漢詩を引いて心境を述べました。すると現役の相手は労をねぎらうとともに、『生きることは一筋がよし　寒椿』と自らの気持ちを返したのです。映画監督　五所平之助が名女優山田五十鈴に送ったと言われる句です。二人のやり取りは、漢詩と俳句、なんとも格調高く印象的で、特に「寒椿」という言葉と語感が強烈に心に残りました。

それから10年ほど経ったある冬、自分の気持ちをなかなか高められない日々を過ごすことがありました。そんな時、たまたま道ばたの生垣に咲く花が寒椿であることを知りました。何気なく眺めていると、寒中、自分の姿を誇るでもなく、肩肘張らずに淡々と、でもしっかり咲いて、わが道をまっすぐ歩んでいる風情です。よく見ると、濃緑の中、花びらがなにか温かみと優しさをもって語りかけるようで、しかも凛とした存在感があります。とても興味をそそられ元気づけられました。

いまだに山茶花との区別もつかない私ですが、寒椿はいろいろな思いを巡らせてくれる花です。今年も冬の花に目を向けて寒中楽しみ、明るい春へつなぎたいものです。後は、梅、桜と続きます。自然は人間の力を超えていろいろ教えてくれますね。

『寒椿　真顔のわれを笑みで打つ』お粗末！